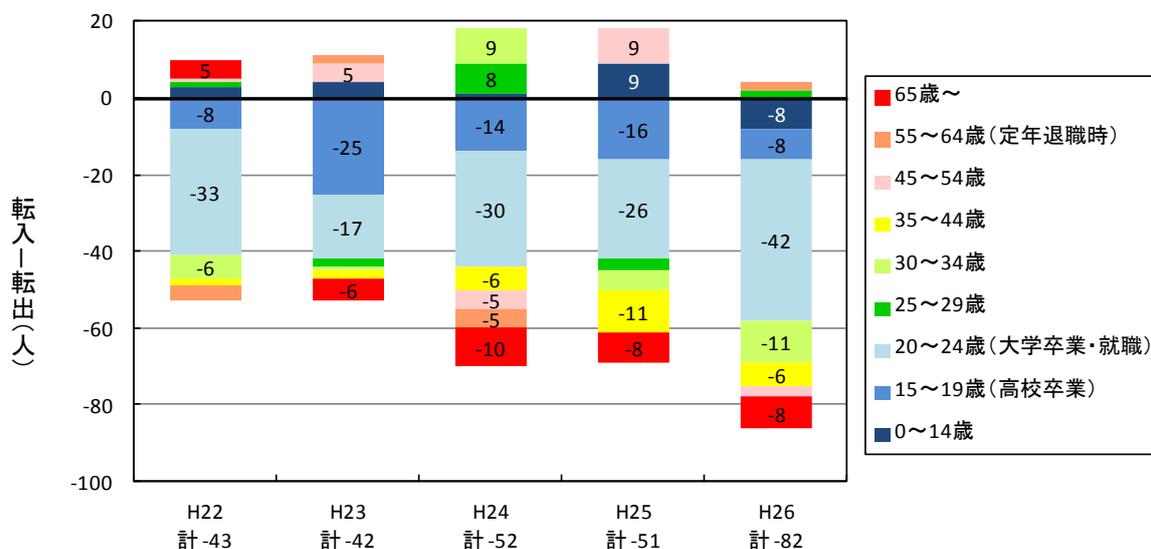


(3) 人口移動の状況

①年齢階級別にみた人口移動の推移

大学卒業・就職の年齢である 20～24 歳の転出超過が特に大きく、また、15～19 歳や 20～24 歳、35～44 歳では各年で転出超過となっている。

図 1.10 年齢階級別にみた人口移動の推移



出典：新潟県の人口移動

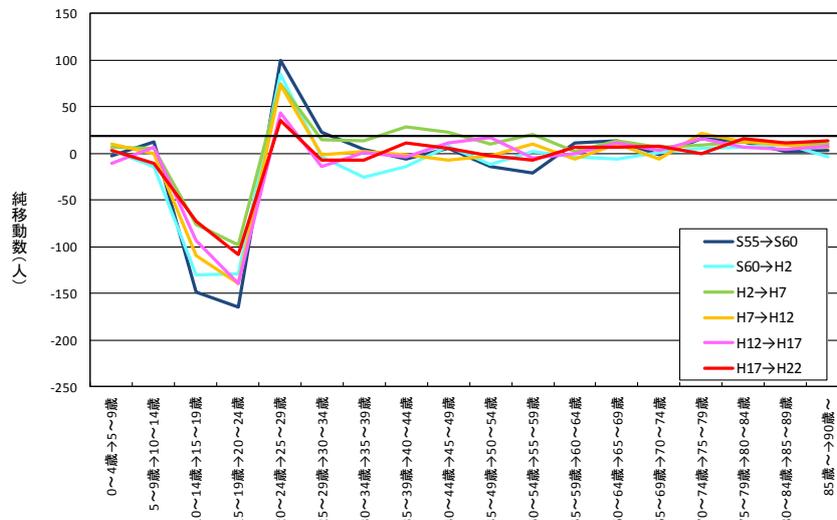
※年齢階級別に純移動数（転入－転出）を算出し、転入超過の場合は0より上に、転出超過の場合は下に棒グラフを作成した。

②性別・年齢階級別人口移動の長期的動向

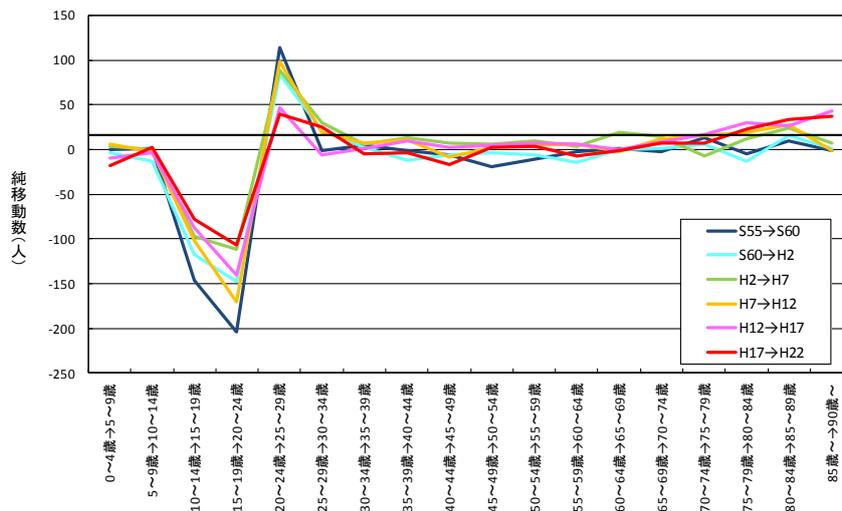
純移動数（※）を推計し、性別・年齢階級別の長期的動向を比較すると、男女とも15～19歳から20～24歳になるときは大幅な転出超過の傾向があり、女性は20～24歳から25～29歳になるときにも転入超過の傾向となっている。しかしながらこの傾向は男女とも昭和55年～昭和60年の頃が最も多く、近年は縮小している。

図 1.11 性別・年齢階級別人口移動の長期的動向

■男 性



■女 性



出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局よりの提供データを基に作成

※純移動数とは、国勢調査の人口と各期間の生残率を用いて推計した値のことである。

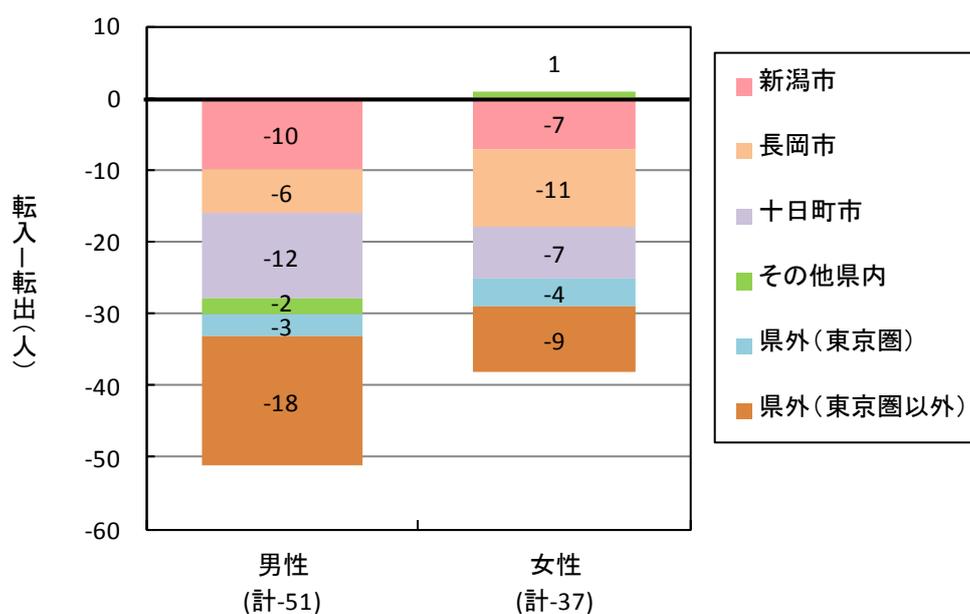
例) S55→S60の0～4歳→5～9歳の純移動数は…

$$[S60の5～9歳人口] - [(S55の0～4歳人口) \times (S55→S60の0～4歳→5～9歳生残率)]$$

③性別にみた純移動数の近況

平成 25 年の純移動数（転入－転出）を男女別にみると、女性に比べ男性の転出超過の数が多くなっている。転出超過数の内訳は、男性では県外（東京圏以外）が最も多く、女性では長岡市が最も多くなっている。

図 1.12 性別にみた純移動数の近況



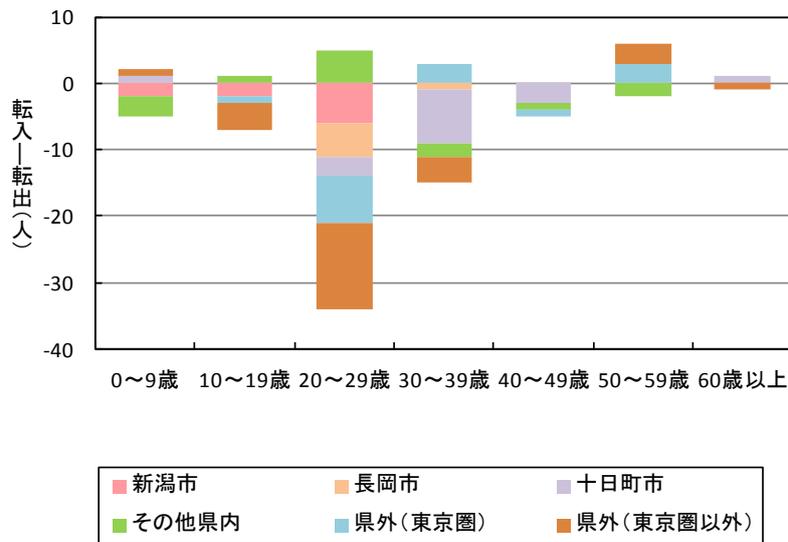
出典：新潟県住民基本台帳人口移動報告（H25 版）

④性別・年齢階級別にみた純移動数の近況

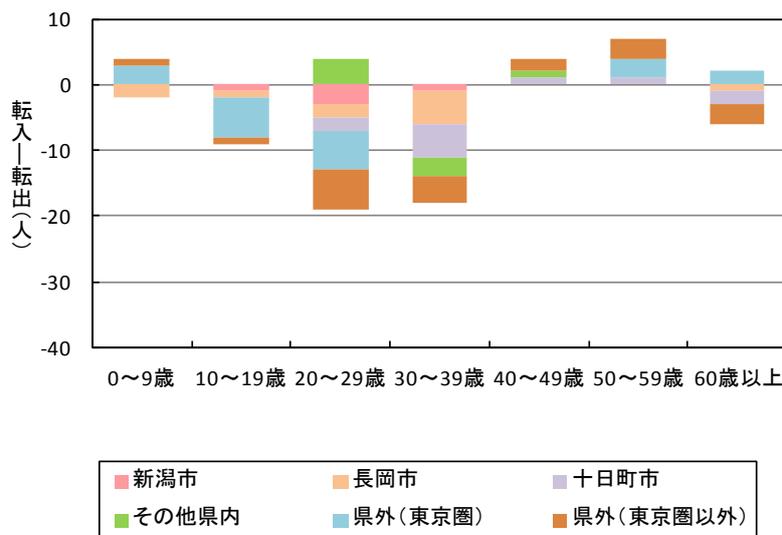
平成25年の純移動数（転入－転出）をさらに年齢階級別に分けてみると、男性では20～29歳、女性では20～29歳と30～39歳の転出超過が多く、その内訳は男性では県外（東京圏・東京圏以外）が、女性では県外（東京圏・東京圏以外）や十日町市、長岡市等が多数を占めている。一方、男女ともに50歳～59歳では転入超過となっている。

図 1.13 性別・年齢階級別にみた純移動数の近況

■男 性



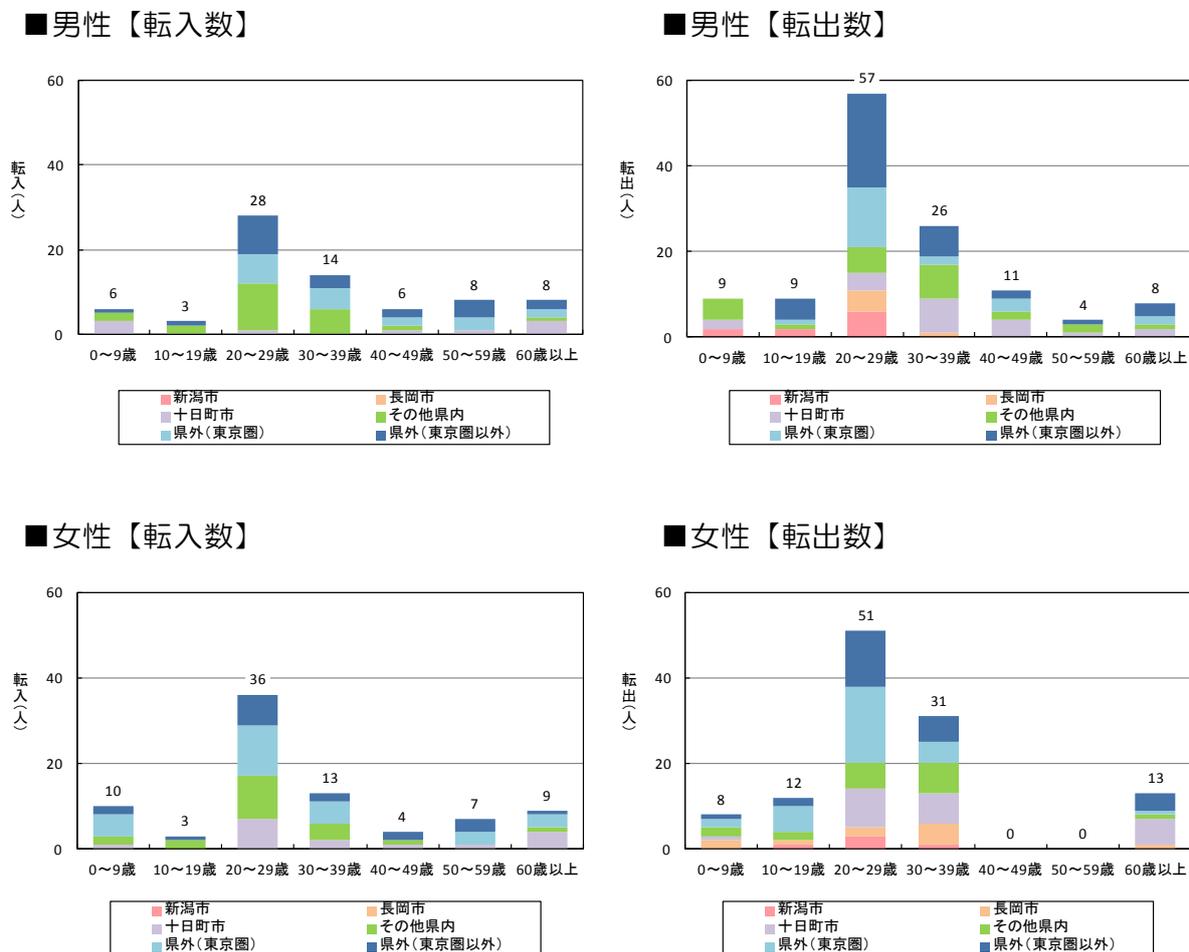
■女 性



出典：新潟県住民基本台帳人口移動報告（H25 版）

(参考) 転出・転入の近況 (H25)

図 1.14 性別・年齢階級別にみた転入・転出の近況



出典：新潟県住民基本台帳人口移動報告 (H25 版)

⑤全国地域ブロックにおける人口移動の状況

県外の移動では平成 22 年、平成 23 年は東京圏（東京、千葉、神奈川、埼玉）への移動が多く、次いで新潟県内となっている。平成 24 年、平成 25 年は新潟市への移動が最も多くなっている。平成 26 年は東京圏への移動が多いが、関西圏への移動も多くなっている。

図 1.15 全国地域ブロックにおける人口移動の状況

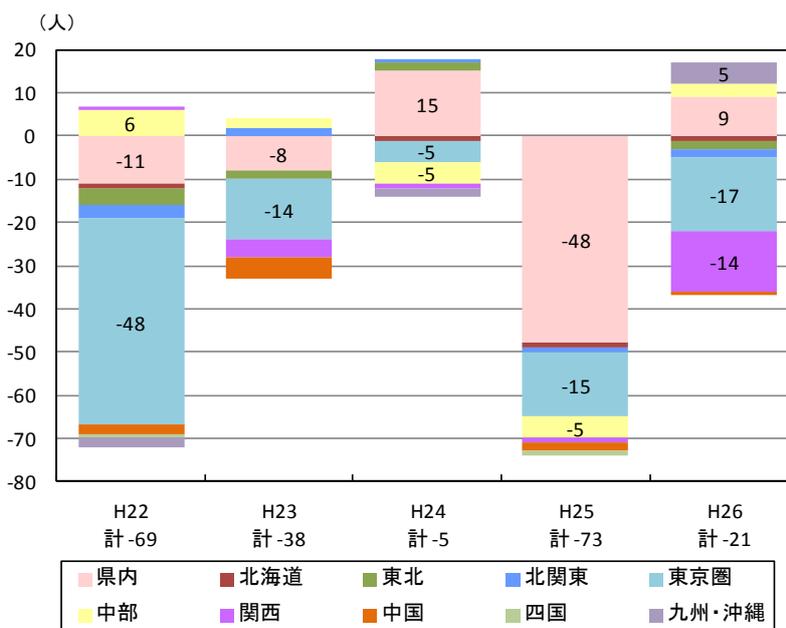


表 1.2 全国地域ブロックにおける人口移動のブロック別内訳

	転入					転出				
	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26
県内	215	175	211	191	197	226	183	196	239	188
北海道	0	0	3	0	0	1	0	4	1	1
東北	4	5	4	8	4	8	7	2	8	6
北関東	3	5	9	5	2	6	3	8	6	4
東京圏	28	44	34	43	32	76	58	39	58	49
中部	15	11	2	3	11	9	9	7	8	8
関西	5	4	2	4	5	4	8	3	5	19
中国	1	0	3	2	1	3	5	3	4	2
四国	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
九州・沖縄	1	3	1	1	8	3	3	3	1	3
総数	285	254	285	268	277	354	292	290	341	298

出典：新潟県の人口移動

※各地域ブロックに含まれる都府県

- 東北ブロック：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島。
- 北関東ブロック：茨城、栃木、群馬。
- 東京圏ブロック：埼玉、千葉、東京、神奈川。
- 中部ブロック：富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知。
- * 関西ブロック：三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山。
- 中国ブロック：鳥取、島根、岡山、広島、山口。
- 四国ブロック：徳島、香川、愛媛、高知。
- 九州・沖縄ブロック：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄。

⑥年齢階級別移動理由の近況

平成 25 年 10 月～平成 26 年 9 月の 1 年間の転入・転出を理由別にみると、両者ともに「職業」や「住宅」との理由が多くなっている。

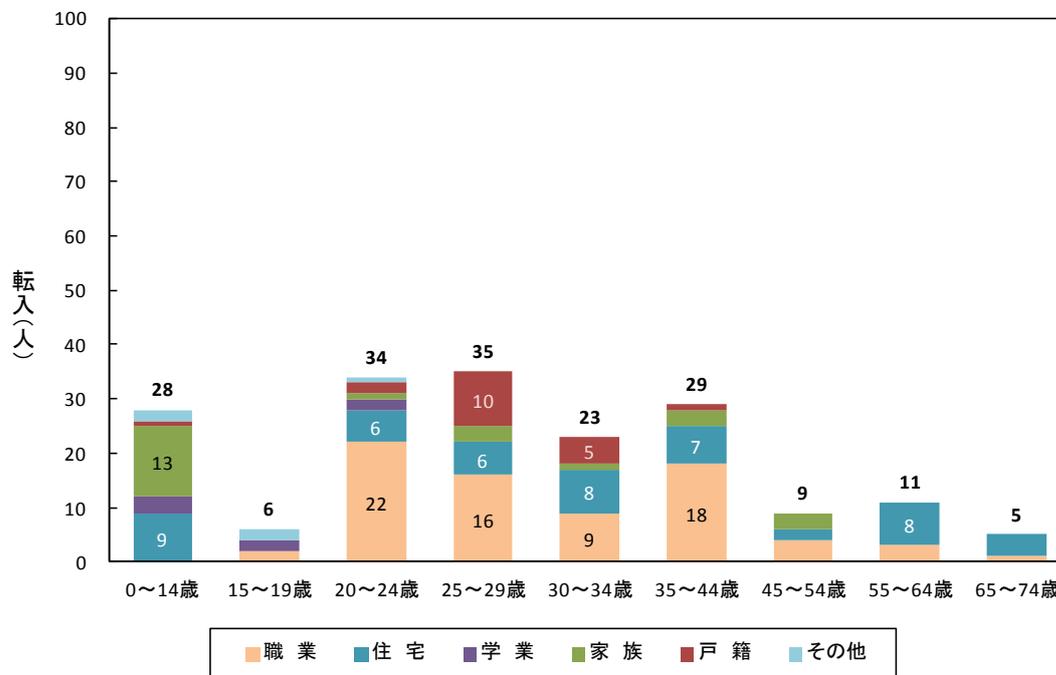
本町への転入者では、0～14 歳では「家族」との理由が最も多くなっている。

なお、移動の理由（転出入者の申告による）については下記の分類としている。

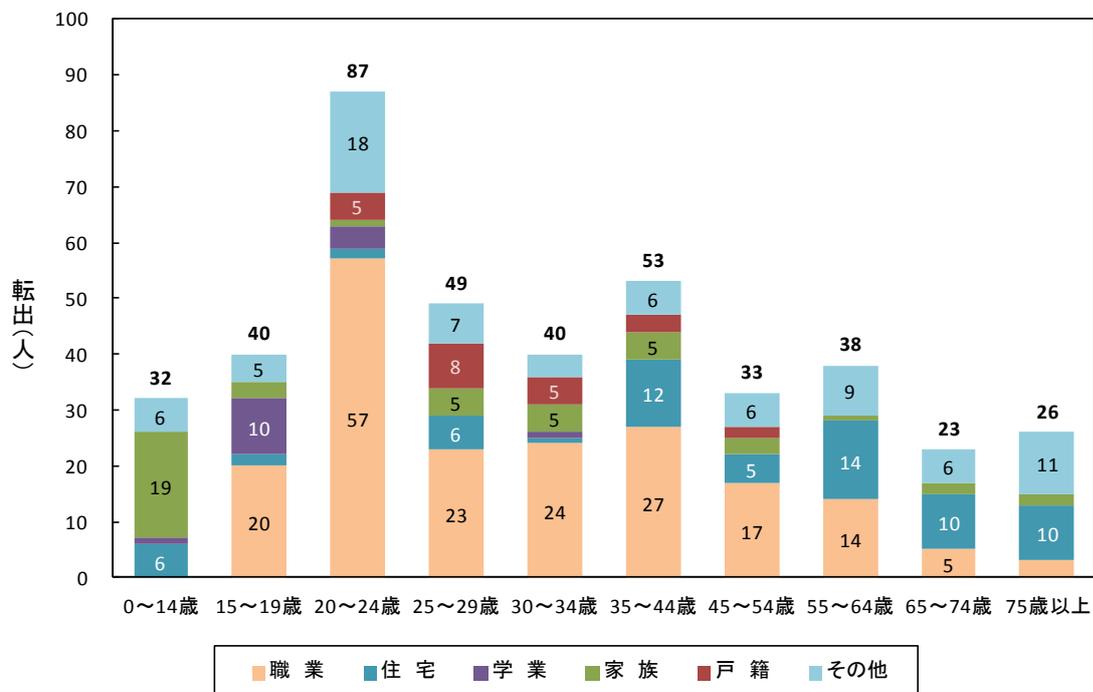
1. 「職業」……就業、転勤、求職、転職、開業など職業関係及び出稼ぎ、出稼ぎ先からの帰郷による移動。
2. 「住宅」……家屋の新築、公営住宅・借家への移転など住宅の都合による移動。
3. 「学業」……就学、退学、転校など学業関係による移動（単身移動に限定）。
4. 「家族」……移動の直接の原因となった者に伴って移動する家族の移動。
5. 「戸籍」……結婚、離婚、養子縁組、復縁など戸籍関係による移動。

図 1.16 年齢階級別移動理由の近況

■転入の理由



■転出の理由



出典：新潟県の人口移動